

対象となる戦略重点科学技術
「生命プログラム再現科学技術」
「世界最高水準のライフサイエンス基盤技術」

コーディネータ
五條堀孝(国立遺伝学研究所)

目標

世界最高水準のライフサイエンス基盤技術の構築を中心とした、
ライフサイエンス研究における国際的優位性の確保を目標とする。

概要

「生命科学の基礎・基盤」は「ポストゲノム」連携施策群の基礎・
基盤を引き継ぐ連携施策群である。

対象とする各省主要施策

- ・ターゲットタンパク研究プログラム(文)
- ・ゲノムネットワークPJ(文)
- ・ゲノム科学総合研究事業(文)
- ・統合データベースPJ(文)
- ・ナショナルバイオリソースPJ(文)
- ・脳科学総合研究事業(文)
- ・免疫・アレルギー科学総合研究事業(文)
- ・生物資源研究(厚)
- ・農林水産生物ゲノム情報統合データベースPJ(農)
- ・ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発PJ(経)
- ・糖鎖機能活用技術開発PJ(経)
- ・機能性 RNA PJ(経)

平成19年度施策における不必要な重複の精査

関係各省の19年度施策のヒアリングを行った結果、不必要な
重複は認められなかった。

平成20年度概算要求に向けた重点事項

<生命プログラム再現科学技術>

○脳科学研究の推進

○生命プログラム再現のための要素研究(機能性
RNA、糖鎖、タンパク質相互作用、ゲノムネットワー
ク等)の推進

<世界最高水準のライフサイエンス基盤整備>

バイオリソース

○生物遺伝資源研究の推進と生物遺伝資源の整備・
有効活用に向けた取組

統合的なデータベースの構築

○ライフサイエンス分野の統合データベースの構築と
利用促進に向けた取組

(ライフサイエンス分野)

科学技術連携施策群「食料・生物生産研究」

対象となる戦略重点科学技術
「国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術」
「生物機能活用による物質生産・環境改善科学技術」

コーディネータ
小川奎(財団法人日本植物調節剤研究協会)

目標

環境と調和の取れた安全な食料の生産・供給、ならびに生物機能活用による物質生産のための基盤技術の構築を目指す。

概要

植物等の生命現象の生理・生化学的解明の研究を踏まえ、生物が持つ機能を活用して食料・バイオマス等の生産力を高めるための研究開発を強化する。

対象とする各府省主要施策

- ・食品健康影響評価技術研究(食)
- ・植物科学研究事業(文)
- ・食の安心・安全確保推進研究(厚)
- ・アグリ・ゲノム研究の総合的な推進(農)
- ・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業(農)
- ・アグリバイオ実用化・産業化研究(農)
- ・安全で信頼性、機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発(農)
- ・遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策(農)
- ・土壌微生物相の解明による土壌生物性の解析技術の開発(農)
- ・生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発(農)
- ・植物機能を活用した高度モノ作り基盤技術開発(経)
- ・微生物機能を活用した環境調和型製造基盤技術開発(経) 等

平成19年度施策における不必要な重複の精査

関係府省の19年度施策のヒアリングを行った結果、不必要な重複は認められなかった。

平成20年度概算要求に向けた重点事項

- ゲノム情報に基づく遺伝子機能の解明とその活用による農林水産物の開発
- 新たなバイオ産業の創出に向けた生物機能利用技術の開発
- 生物生産の効率を向上させる研究の充実
- 低コスト・超多収バイオマス植物の開発
- バイオマスの効率的利用技術への貢献
- 遺伝子組換え技術開発の研究成果の普及に向けた取組
- 食の安全・消費者の信頼の確保技術の開発
- 食品の供給行程全般における効果的リスクコミュニケーション手法の開発
- リスクコミュニケーションに関する人材育成

(ライフサイエンス分野) 科学技術連携施策群「臨床研究・臨床への橋渡し研究」

対象となる戦略重点科学技術
「臨床研究・臨床への橋渡し研究」「標的治療等の画期的がん医療技術」

コーディネータ
松澤佑次(住友病院)

目標

がん、生活習慣病、免疫・アレルギー疾患、精神・神経疾患等の疾患に対応した国民への画期的治療薬・医療機器・医療技術の迅速な提供を目指す。

概要

国民を悩ます病を克服するための研究開発、支援体制整備、人材養成等の成果を国民への還元する臨床研究・臨床への橋渡し研究を強化する。

対象とする各省主要施策(新規・拡充施策)

【疾患対応予防・診断・治療技術及び新治療技術関係】

個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト(文)
遺伝子多型研究事業(文)
脳科学総合研究事業(文)【再掲】
革新的ながん治療法等の開発に向けた研究の推進(文)
重粒子線がん治療研究(文)
第3次対がん総合戦略研究(厚)
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究(厚)
再生医療の実現化プロジェクト(文)
再生医療実用化研究(厚)
インテリジェント手術機器研究開発プロジェクト(経)
医療機器開発推進研究(厚)

【医薬基盤技術関係】

発生・再生科学総合研究事業(文)
創薬バイオマーカー探索研究(厚)
分子イメージング研究プログラム(文)
生物資源・創薬モデル動物研究(厚)
ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発(経)【再掲】

【臨床研究・橋渡し研究・治験環境関係】

橋渡し研究支援推進プログラム(文)
臨床研究基盤整備研究(厚)
医工連携研究推進基盤研究(厚)
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発(経)
治験推進研究(厚)
臨床研究・予防・治療技術開発研究(厚)

平成19年度施策における不必要な重複の精査

関係各省の19年度施策のヒアリングを行った結果、不必要な重複は認められなかった。

平成20年度概算要求に向けた重点事項

【疾患対応予防・診断・治療技術及び新治療技術関係】

①がん、メタボリックシンドローム等の生活習慣病、免疫・アレルギー疾患、精神・神経疾患等の重大疾患領域を克服する研究の強化(拡充)
(革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略、新健康フロンティア)

②再生医療・生活領域拡張技術等科学技術の社会還元の加速に資する研究の推進及び再生医療拠点の形成(拡充)(イノベーション25、新健康フロンティア、革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略)

【医薬基盤技術関係】

③バイオマーカー、テーラーメイド医療、再生医療、マイクロドーズ等の新たな創薬・医療技術に関する技術開発の推進
(一部新規)(革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略)

④レギュラトリーサイエンスに向けた取組(拡充)(革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略)

⑤ベンチャー等民間企業育成(新規)(革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略、新健康フロンティア)

【臨床研究・橋渡し研究・治験環境関係】

⑥橋渡し・臨床研究・治験環境及び人材育成(革新的医薬品・医療機器創出5か年戦略、新健康フロンティア)

- ・ 橋渡し研究拠点、臨床研究・治験体制の整備促進(拡充)
- ・ 医療、産業及び大学との密接な連携・集積による研究を促進(拡充)
- ・ 医師や臨床試験を支援する人材の育成・確保(一部新規)
- ・ アジア諸国との共同研究の推進(新規)

科学技術連携施策群「新興・再興感染症」

対象となる戦略重点科学技術
「新興・再興感染症克服科学技術」

コーディネータ
倉田 毅(富山県衛生研究所)

目標

新興・再興感染症に対する脅威から国民の安心・安全を確保するための研究体制構築を目指す。

概要

①ワクチン等の開発や、迅速診断系など 疾患横断的な基盤技術の開発の推進、②野生動物や昆虫における病原菌のサーベイランスを恒常的に行う研究体制の強化、③発生国等、海外と国内研究拠点との連携強化、④多目的な共同実験型の高度安全実験施設の整備についての検討、⑤感染症研究の人材育成、等を行う。

対象とする各府省主要施策

- ・食品健康影響評価技術研究(食)
- ・新興・再興感染症研究拠点形成プログラム(文)
- ・エイズ・肝炎・新興再興感染症研究(厚)
- ・食の安心・安全確保推進研究(厚)
- ・牛海綿状脳症(BSE)及び人獣共通感染症の制圧のための技術開発(農)

平成19年度施策における不必要な重複の精査

関係府省の19年度施策のヒアリングを行った結果、不必要な重複は認められなかった。

平成20年度概算要求に向けた重点事項

- 海外の感染症研究施設との研究協力体制の推進
- サーベイランス等の充実
- 野生動物を視野に入れた感染源の調査
- 感染症制圧のための研究開発とその成果等の普及を推進
- バイオテロ対策を視野に入れた研究体制の強化